

# 【立間川水系河川整備計画】

## 河内川 潮止め施設の改築計画 説明資料

愛媛県南予地方局建設部



喜佐方小学校

河内川

東蓮寺ダム

吉田中学校

國安川

河内川

現在の潮止め施設  
(河内川第一水門)

# 平成30年7月豪雨 立間川流域の浸水状況

1 河内川（喜佐方小学校前）



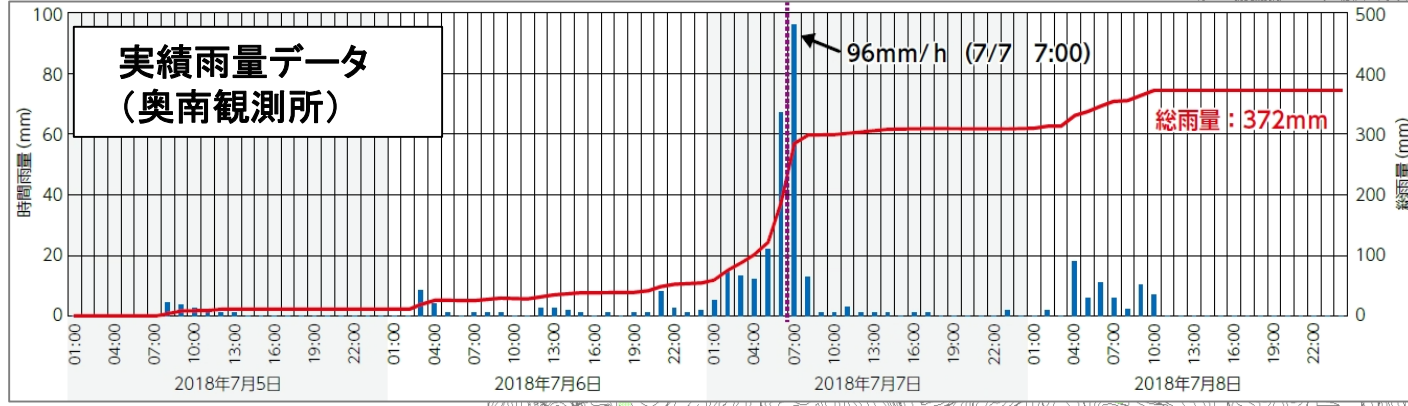
2 国道378号（御殿内地区）



3 国安川（図書館前）



4 立間小学校



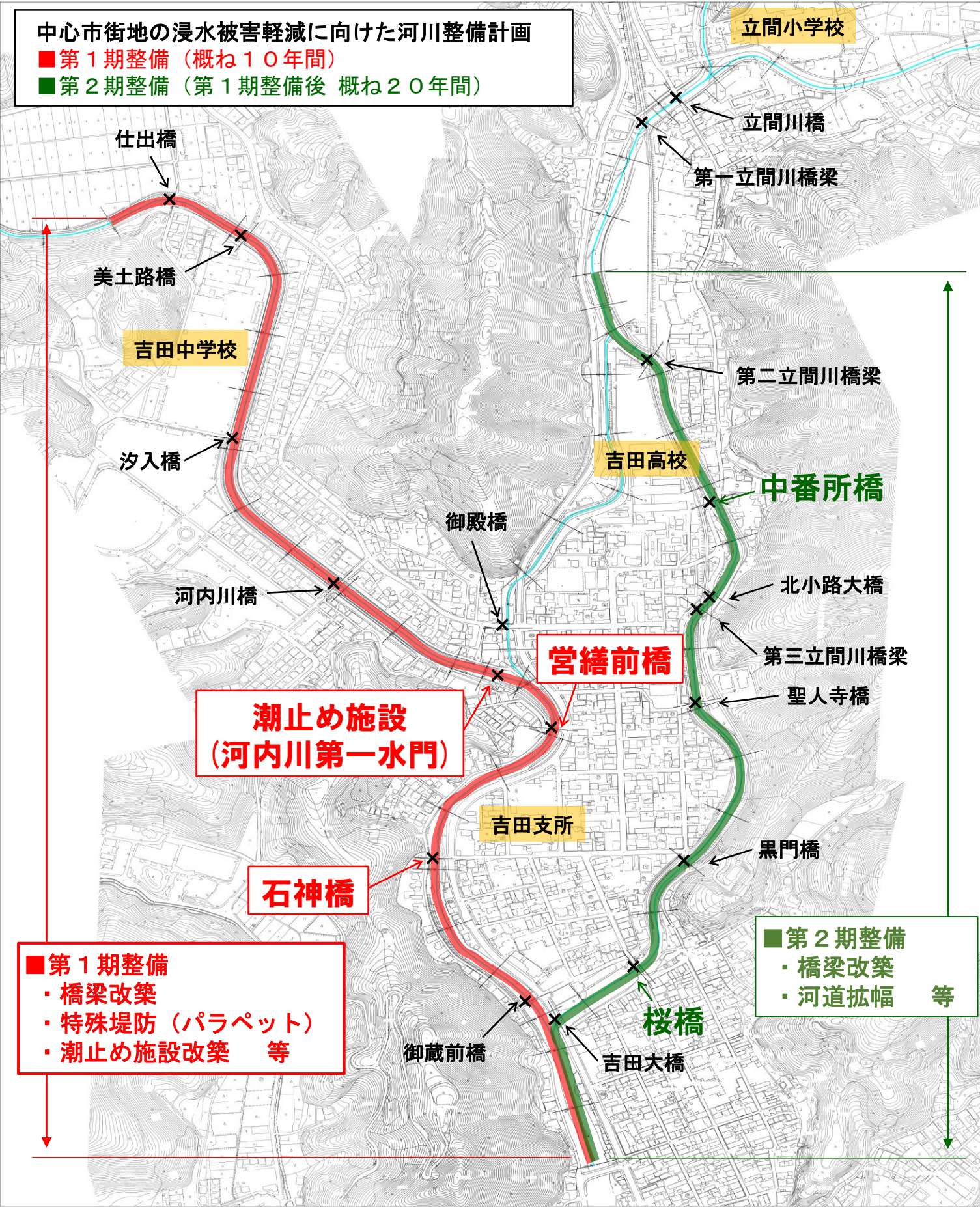
立間川流域の全域で浸水。  
河内川の沿川で、特に大きな浸水被害が発生。



# 立間川水系 河川整備計画

中心市街地の浸水被害軽減に向けた河川整備計画

- 第1期整備 (概ね10年間)
- 第2期整備 (第1期整備後 概ね20年間)



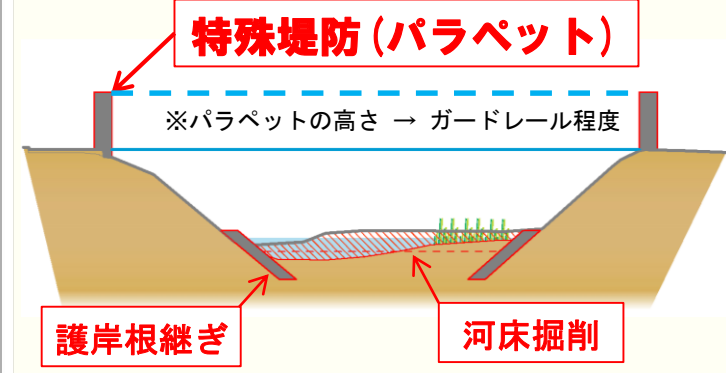
- 第1期整備
  - ・ 橋梁改築
  - ・ 特殊堤防 (パラペット)
  - ・ 潮止め施設改築 等

- 第2期整備
  - ・ 橋梁改築
  - ・ 河道拡幅 等

## ① ボトルネック橋梁の改築



## ② 河川断面の拡大



パラペットの整備に伴い、潮止め施設の改築が必要



※仮に、現水門を改築するとした場合、最低でもパラペットの高さ以上に水門の扉が上がるように改造しなければならない

# 河内川の潮止め施設について

現在の河内川第一水門は、昭和47年当時の河川改修工事に際して、土地改良区（吉田町）の潮止め水門を県が補償工事で整備した施設である。その後、昭和49年に土地改良区（吉田町）から県に寄付されて、県の施設になったが、県と吉田町で委託契約を結んで、県が修繕と改良を行い、吉田町が水門操作と維持管理を行うことになった。

高度経済成長期以降、国安川との合流点から吉田中学校付近までの河内川周辺は宅地化が進んだが、吉田中学校から上流は稲作が続いている。しかし、水田は地盤高が低いため、**今後も潮止め施設による塩害対策が今後も必要である。**

## ～ 吉田町誌における河内川の潮止めに関する記述 ～

『河内川も、昔はその川口が現在の喜佐方小学校のあたりにあったものである。』  
 『沖村においても、水田の潮入りに対する防災の工夫が、永年の課題となっていたことは想像にかたくない。』  
 『河内川の水門については、赤松家「永代控」に  
 寛政八年（1796）六月 一 御兵具水門御作事方二而御仕成被成候処居替二付人夫沖村立場尻浦者差出様申参差出とあるほか、たびたび修繕がおこなわれていることがしれるが、構築の年代、構造などについては記録がない。おそらく宗純の陣屋入前、吉田新田造成のころには、すでに何らかの潮止めの工夫がなされていたものと推察される。』

給食センター



水田の地盤高が低い

## 【参考】河内川周辺の移り変わり

吉田市街図 提供：宇和島市教育委員会  
 航空写真 出展：国土地理院地図の空中写真（1947年、1966年、1974年、1978年、1985年）

昭和22年  
 (1947年)



吉田中学校建設前の様子

出展：「なつかしの吉田」  
 (昭和59年 吉田町発行)

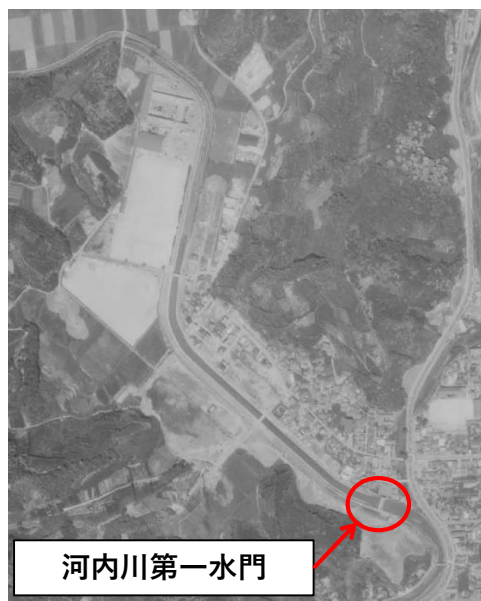
昭和41年  
 (1966年)



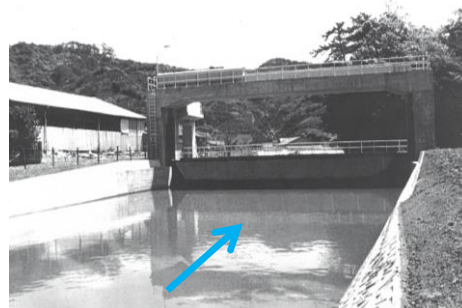
吉田町の合併経緯

[明治22年] 町村制施行  
 <吉田町>  
 東小路、西小路、北小路、本町、裡町、魚棚町  
 <立間尻村>  
 立間尻浦、鶴間浦、浅川浦、深泥浦、沖村の一部  
 <喜佐方村>  
 沖村、河内村  
 <奥南村>  
 奥浦、南君村  
 <立間村>  
 立間村  
 <玉津村>  
 法花津浦、深浦、白浦  
 [昭和13年] 吉田町が立間尻村を編入  
 [昭和30年] 昭和の大合併  
 喜佐方村、奥南村、立間村、玉津村、知永と合併  
 [平成17年] 平成の大合併  
 宇和島市、津島町、三間町と合併

昭和49年  
 (1974年)

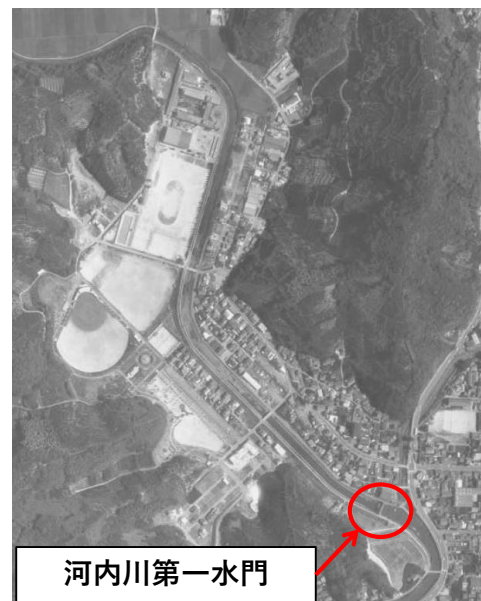


河内川第一水門



河内川第一水門（昭和47年竣工）

昭和53年  
 (1978年)

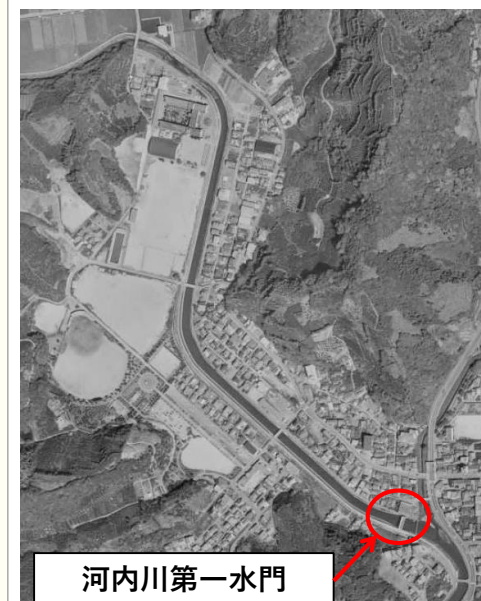


河内川第一水門

主な公共事業①

- 国道56号改良 [知永峠～法花津峠]  
 昭和38年～47年（1963年～1972年）  
 吉田町内区間の供用開始 → 昭和47年
- 河内川 小規模河川改修  
 昭和38年～（1963年～）  
 河内川第一水門の竣工 → 昭和47年
- 吉田中学校建設  
 昭和43年（1968年）開校  
 吉田東、吉田南、吉田西の3中学校を統合
- 吉田公園整備  
 昭和51年（1976年）竣工

昭和60年  
 (1985年)



河内川第一水門

主な公共事業②

- 県営湛水防除事業  
 昭和55年度～60年度（1980年～1985年）  
 吉田排水機場の竣工 → 昭和60年度
- 吉田町図書館建設  
 昭和61年（1986年）竣工
- 美土路橋建設 [吉田中学校前の橋梁]  
 昭和63年（1988年）竣工
- 東蓮寺ダム建設  
 平成8年（1996年）竣工

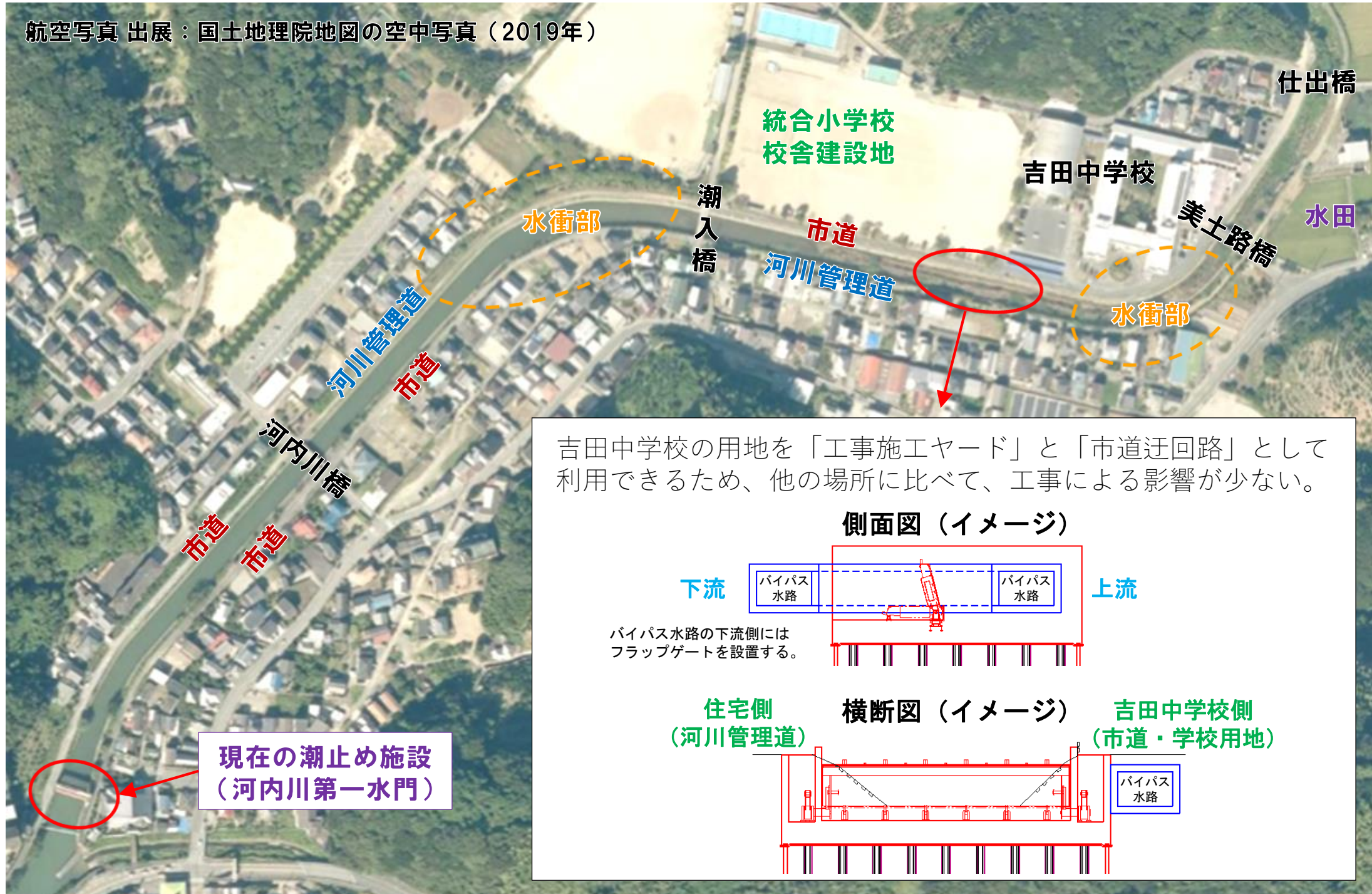
# 潮止め施設の改築計画（構造形式）

構造形式	引上タイプ （水門）	起伏タイプ （ゴム堰）	転倒タイプ （鋼製堰）
イメージ	<p>写真：現在の河内川第一水門</p> <p>通常時</p>  <p>写真：現在の河内川第一水門</p> <p>洪水時</p> 	<p>写真：今治市宮浦本川の潮止めゴム堰</p> <p>通常時</p>  <p>写真：今治市宮浦本川の潮止めゴム堰</p> <p>通常時</p> 	<p>写真：大乘寺（吉田町立間）の取水用鋼製堰</p> <p>通常時</p>  <p>写真：土器川（香川県丸亀市）の潮止め鋼製堰</p> <p>通常時</p>  <p>令和3年6月にゴム堰から鋼製堰に改築された。</p>
特徴	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通常は扉が閉じて、潮の遡上を防ぎ、流水は扉に設置されたフラップゲートから流す。洪水時に扉が上がる。 ※現在の水門と同様の構造。</li> <li>●潮止め施設としての実績が最も多い。</li> <li>●修繕工事において、<b>大規模な仮設水路が必要</b>になる。</li> <li>●ハザードマップに示された想定最大規模クラスの豪雨による洪水が発生した場合、<b>大きな流木等が詰まり、近隣の被害を拡大させる恐れ</b>がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通常はゴムの袋が膨らんで、潮の遡上を防ぎ、流水は併設するバイパス水路（出口にフラップゲートが設置された暗渠）から流す。洪水時にゴムの袋が萎み倒伏する。</li> <li>●潮止め施設としての実績あり。</li> <li>●修繕工事において、バイパス水路を仮設水路として利用できる。</li> <li>●<b>上流と下流の水位差が小さく、かつ、流速が小さい場所では、ゴムの袋が完全に倒伏しない</b>ことがある。</li> <li>●倒伏したゴムの袋に、<b>洪水時の土砂が堆積した場合、復旧が困難</b>であるとともに、<b>撤去時にゴムの袋が損傷する恐れ</b>がある。</li> <li>●ゴムの袋が裂けた場合、緊急補修が困難である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●通常は鋼製のゲートが起立して、潮の遡上を防ぎ、流水は併設するバイパス水路（出口にフラップゲートが設置された暗渠）から流す。洪水時に鋼製のゲートが倒れる。</li> <li>●潮止め施設としての実績あり。</li> <li>●修繕工事において、バイパス水路を仮設水路として利用できる。</li> </ul>
評価	△	△	○

# 潮止め施設の改築計画（場所）

## 基本的な考え方

- 現在の水門の位置から水田までの区間に新しい潮止め施設（鋼製堰）を整備し、整備後に現在の水門を撤去する。
- 工作物の設置が不適当とされる水衝部のカーブ区間は避け、直線区間に整備する。
- 工事による影響（地域の皆様の日常生活への影響等）が少ない場所に整備する。



# 潮止め施設の改築計画（今後の予定など）

- 吉田中学校グラウンド～体育館横の区間で新しい潮止め施設（鋼製堰）を計画することとし、地質調査と詳細設計を実施する。
- 関連する統合小学校建設事業等と工程調整を行い、工事スケジュールを決定する。
- 宇和島市関係部局と連携し、新しい潮止め施設の操作規則や管理方法等を決定する。



愛媛県では、宇和島市と連携して、立間川水系河川整備計画に基づく河川改修に取り組んで参りますので、今後とも、事業へのご理解とご協力をお願いします。

## 問い合わせ先

愛媛県 南予地方局 建設部 河川港湾課 災害グループ（担当：酒井，佐藤）  
〒798-8511 愛媛県宇和島市天神町7-1  
電話：0895-22-4831  
電子メール：nan-kasenkowan@pref.ehime.lg.jp



南予地方局河川港湾課のホームページに立間川水系河川整備計画を掲載しています。

南予地方局河川港湾課

検索

がんばってます！南予

